

氏名	呉本和香奈	法科大学院等の在籍年次	2L
----	-------	-------------	----

*このレポートは主としてこれからインターンシップに行くことを考えている人達に情報提供を行うことを目的とするものです。以下の項目について適宜行数を増やしながらかき込んでいって下さい。文字数及び頁数に制限はありません。

*このレポートは、記名で法学研究科のウェブサイトに掲載されます。もし氏名掲載を希望しない場合には、その旨をお知らせ下さい。

*重要情報についてはできる限り具体的に記載して下さい。また、後輩の方達に向けた率直なアドバイスをお願いいたします。

1 受入事務所と滞在期間

受入事務所：One Asia Lawyers カンボジア事務所、2月21日～3月20日までの30日間

2 事務所の業務・構成・勤務条件及びインターンシップの内容等

事務所は法律に限らず、日本からカンボジアに進出する企業や事業主をマルチにサポートすることを業務としており、会計、税務、法務の部門ごとにスタッフが置かれていました。勤務時間は朝8:00～夕17:30で、昼休憩は12:00～13:30、土曜日は午前中のみ出勤でした。

私はリーガルチームに所属して弁護士の方の打ち合わせに同席させていただいたり、仲裁の判決文を読ませていただいたりしていました。私が最も力をいれて行ったのはカンボジア人スタッフのレベルアップのためのスタディセッションで、週2回、民法の債務不履行に基づく損害賠償請求をテーマとして対話形式の授業を行いました。カンボジアは歴史的な事情から教育に困難を抱えていてスタッフの育成が課題であること、私が法整備支援等に興味があり教育にも関心があったこと、そしてカンボジア民法が日本法を色濃く継受していることから実現できたことであり、他の海外インターンでもあまり例を見ない内容ではないかと思ひます。

その他、王立法律経済大学内の日本法教育センターで授業を見学させていただいたり、司法省内のJICA事務所にて土地法の改正作業を見学させていただいたり、各専門家や学生にインタビューを行って、今後JICAがカンボジアの法整備支援プロジェクトとして何を行うべきか考える、という体験をさせていただきました。

3 宿舎及びその他の生活環境について

宿舎：最初は一泊7\$程の格安ホテルに宿泊していましたが、治安や環境が良くなかったため事務所の方と相談し、1泊50\$程の良いホテルを取り直しました。

交通：カンボジアはあまり徒歩に適さない道路状態なので、基本的にトゥクトゥクを使って移動しました(事務所はホテルの目の前だったので徒歩通勤でした)。排ガスや土埃で空気が悪いので気になる方はマスクを持参することをおすすめします。トゥクトゥクは配車アプリを利用することで安全かつローカルに近い値段で利用できます。クメール語が分からない客にふっかけるドライバーや、英語が通じず行先の指示や値段交渉が困難なドライバーも多いのでアプリの利用を強くおすすめします。

金銭面：基本的に物価は安く、ローカルの店を利用すれば食事は1\$程度で済ませることが可能です。外国人向けの店はそれなりの価格です。リエル(カンボジアの通貨)の他、アメリカドルが通用しているため、あえてリエルに替える必要がないところはメリットだと感じます(発展途上国の通貨は余っても日本円に戻せないことが多いので)。

生活：事務所近くにあるBKK(日本人が多く居住する地区)やイオンに行けば、日本人向けのクオリティで大抵のものがそろっているので生活に不便することはありませんでした。日本でいつも使っているものも手に入りますが、かなり割高になります。特に女性の方は、ケア用品や衛生用品は余裕をもって持参の方がよいと思います。事務所には日本人の弁護士だけでなく事務員さんもいらっしゃり、大変親身になってくださったので現地で困ったときはよく相談に乗っていただきました。

4 出発に向けた準備等について

航空券の手配：ネットで各サイトを比較し、安くて無理のない旅程を選択しました。しかし中国経由だったために、コロナウイルスの感染拡大の影響で変更と欠便が相次いだため、結局ベトナム経由の便に変更しました(価格は倍近くなりました)。なお、帰国時にはベトナム航空すら全便キャンセルとなったので直行便で帰国することになりました。こういった不測の事態に備え、キャンセル・返金対応の早い大手の予約サイトを利用することを強くおすすめしたいと思います。

ビザ：アライバルビザ(到着後に空港で取得する方法)で取得しました。事前に必要なのはパスポート、30\$(観光ビザの場合)、申請書(機内でもらえる)だけでした。国内で事前に発行するとなると手間も時間もお金もかかるので、特に不安なことがなければアライバルで良いのではないかと思います。

ホテルの予約：ホテルはなるべくコストを抑えたかったので格安のものを手配しましたが、バックパッカーの多い地域でかなり治安が悪かった(現地の方よりもそういった旅行者の方が危険なことはまます)ので、事務所の先生方も心配ということで、事務所の目の前のホテルを取り直すことになりました。事務所の方にもご迷惑とご心配をおかけしたので、事前のリサーチをもっと念入りにすべきだったと反省しています。

5 インターンシップに要した費用

ビザや航空券など、大学負担の費用をのぞくと、合計で15万円ほどだと思います。内訳としては、ホテル代に10万円、食費に1万円(ホテルは朝食付き、昼食は事務所負担でお弁当でした)、交通費に1万円、買い物等に3万円といった感じだと思います。途中ビザランを兼ねてタイ旅行に出かけたりした(出費からは除いています)ので、具体的な内訳はよく分かりません。

6 これからインターンに行く人達へのアドバイス等

とりあえず飛び込んでみることでないでしょうか…。やりたいことや興味関心のある分野がはっきりしている方が事務所の先生方もアレンジメントしやすいと思うので、もしそういうのが明確にある方は遠慮なく伝えると良いと思います。

英語能力については、堪能である必要は全くありません。ですが、英語にある程度慣れている人と、そうでない人では得られるものの量や質には大きな差があると(個人的には)思います。文書を一読しておおまかな内容がわかる、世間話くらいはできる、という方は使用言語が英語であることをハンデとせず内容に注力できるからです。しかしそうでないからといってインターンを諦める理由にはならないとも思います。今英語が苦手な方でも、分からないなりに現地で頑張ってみるという経験はかなり重要です、その機会は早ければ早い方が良いでしょう。結局、英語ができる人もできない人も応募するべし、ということです。

7 インターンシップの有用性等に関する評価及び感想

私は今回のインターンに行って本当に貴重な経験を積むことができたと思っています。日本の弁護士の海外での働き方を目の前で見ることができたことも大きいですし、スタディセッションというかたちで自分にしかできない事務所への貢献が些細ながらできたことも自信につながりました。また、自身と事務所とのマッチング次第ではかなり自由に様々な経験を

得る機会を作っていただける可能性があるというのも、海外インターンの魅力だと思います。たしかに期間が国内エクスターンの倍近くあるなど日常の学習への影響は大きいかもしれませんが、そんなことは些細なことであると思えるくらいには貴重な経験を積むことができると言ってよいと感じました。